

県北振興の指針「県北振興チャレンジプラン」の改定について

茨城県では、県総合計画における地域づくりの基本的な考え方に基づき、2019年に「県北振興チャレンジプラン」を策定して以降、地域経済を支える中小企業等の収益力向上や農林水産業振興、地域資源を活かした体験型観光の促進などに取り組んでまいりました。

今般、現プランの計画期間（～2023年度）の終了に伴い、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、下記のとおり同プランの改定（計画期間：2024～26年度）を行いましたのでご案内いたします。

改定の方向性

県北6市町を対象地域として、引き続き3つの柱「仕事づくり、にぎわいづくり、人づくり」に基づき、これまでの取組で効果のあった部分は進めるとともに、**臨海部や山間部など地域の特性を踏まえた取組となるよう内容を見直す。**

また、経済活動はひとつの地域に収束するわけではないことを念頭に、**市町の境界にとらわれることなく、取組の成果を、他の人口減少が進む地域も含め、県全体に波及させ、広がりを生み出すという視点を盛り込む。**

改定のポイント

- | | |
|---|---|
| ① 「県北振興チャレンジプラン」改め 『 チャレンジプランNEXT 県北からはじまる、活力があり、持続可能な地域の実現 』 | → 県北地域の活力を、地域内だけではなく、外からヒト・モノのエネルギーを取り込むことで、より一層高め、その成果を、他の人口減少地域にも波及させる好循環を生み出し、県全体の新たな成長と、持続可能な地域の実現につなげていく、県北の「次のチャレンジ」をイメージできる名称に変更 |
| ② 県北地域一括で捉えていた施策方針を改め 地域特性に応じて施策を推進 | → 臨海部及び山間部など地域の特性や強みを活用した施策を、市町の境界にとらわれずに展開する内容に変更 |
| ③ 取組の進捗を測り目標を共有するため 指標を新たに設定 | → 目指す将来像に向けた達成度を定量的に把握するための指標を設定 |

『チャレンジプランNEXT 県北からはじまる、活力があり、持続可能な地域の実現』の概要

※チャレンジプランNEXT（全体版）は県北振興局ホームページに掲載（2024.3.29～）
 【県北振興局ホームページアドレス】
<https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/kikaku/kenpokusinkou/index.html>

1 改定の趣旨

- これまで県北振興チャレンジプランにおいては、ものづくり企業の集積や、豊かな自然環境を活かした観光、農林水産業など、県北の地域特性に着目した取組を進め、地域経済の活性化や新たな人の流れを創出。
- さらなる県北地域の活性化を図るためには、ヒトやモノの循環をより広域的に捉える視点が必要。
- また、県北地域で生み出された取組を、他の地域にも波及させることにより、持続可能な地域を創出し、県全体の新たな成長につなげていくことが可能。
- こうした新たな取組を打ち出していくため、プランの名称と内容を見直すとともに、地域の目指す将来像を関係者が共有し、持続的に発展していく地域とするための指針とする。

目指す発展のイメージ



2 目指す将来像

「活力があり、持続可能な地域」

地域内外の多様な力を結集させながら、地域における主体的な活動と、ヒト・モノの好循環とを生み出し、県北地域はもとより県全体の発展を目指す。

3 計画期間

2024(令和6)年度から2026(令和8)年度まで

4 将来像を実現するための基本的な考え方

- 地域の強みを活かした活性化を図ろう
- 多様な力を集結させよう
- 好循環による波及効果を生み出そう

目指す将来像の実現に向けて、「仕事づくり、にぎわいづくり、人づくり」を柱として、地域の特性や強みを最大限に活かした取組を積極的に推進

5 施策の体系



6 指標の設定

※目指す将来像に向けた達成度を定量的に把握するための指標を設定

- ◎県の支援による新製品等開発や新ビジネス創出件数
- ◎販売農家1戸当たりの生産農業所得
- ◎県北6市町の入込客数
- ◎県の支援により県北地域で創業した人が生み出した雇用等の人数

※本プランの対象地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町

2023年度 県北地域における中小企業に対する意識改革の取組

アイデアソン（県北ビジネスチャレンジプログラム）最終報告会の開催について

アイデアソン

6回開催
(2023年7～12月)
延べ364名参加
各回50～60名程度

- 地域内外から多様な立場の人材が参加し、チームを組んで新たな視点と発想とにより県北地域10社のビジネスプランを磨き上げ
- 各チームは月1回のアイデアソンのほか、Slackを使ったディスカッションやフィールドワークなど、プランのクオリティを高める活動を自主的・積極的に実施



最終報告会

日時 2024年1月20日（土）13:00～18:00
場所 NN Shibuya Crossroads（渋谷スクランブルスクエア44階）

受賞者
茨城県知事賞：(株)菊池精機
宇宙ビジネス分野での自社製品開発
オーディエンス賞：DAIGO SAUNA
DAIGO SAUNAを拠点としたまちづくり
優秀賞：(株)佐々木製作所
ゴルフグリップの開発と販海外路拡大

※知事賞・優秀賞は審査員の審査による1位、2位
オーディエンス賞は、一般参加者の投票による1位

審査員

| 所属・役職 | 氏名 |
|---|-------|
| エヌエヌ生命保険(株) 代表取締役専務兼チーフコンプライアンス オフィサー | 小川 靖子 |
| NPO法人パブリックマインド 理事 / Eight Roads Ventures Japan Vice | 公山 倫子 |
| (一社)常陸frogs 代表理事 / General Organizer | 菅原 広豊 |
| (株)社みらい創造機構 執行役員 パートナー / グロースチーム統括 | 高橋 遼平 |
| 茨城県政策企画部県北振興局長 | 市村 美江 |



(参考) 県北振興チャレンジプランの主な実績：仕事づくり (多様な人財が参加するアイデアソンによる企業の新事業展開)

[2023年度 アイデアソン最終報告会 受賞者]

| 区分 | 茨城県知事賞 | オーディエンス賞 | 優秀賞 |
|-------------------------|--|--|--|
| 企業名 役職 氏名 (年齢) | (株)菊池精機 常務取締役 きくち まさひろ 菊池 正宏 (47) | DAIGO SAUNA 代表 わだ まさのり 和田 真寛 (38) | (株)佐々木製作所 代表取締役 ささき あきひろ 佐々木 謙彦 (47) |
| 業種/所在 | 製造業 / 日立市 | 宿泊業 / 大子町 | 製造業 / 北茨城市 |
| テーマ | MY SATのまち日立 自社製品による宇宙ビジネスへの進出 | DAIGO SAUNAからはじまる大子のまち づくり | 射出成型を活かしたゴルフグリップの開発 と海外販路拡大 |
| 取組内容 | <p>○ボルトを使用せず、性能向上、品質向上を実現したオンリーワン製品 「Boltless Cubesat Structure」を開発</p>  <p>＜アイデアソンでの取組＞ ○宇宙産業に進出するためのビジネスモデルの検討 ・人工衛星プロジェクト等に対しモノづくりの立場から情報提供、提案 ・製品製作は高い技術とノウハウを持つ県北の中小企業と連携して実施 ⇒2件の人工衛星プロジェクトへの参画が進行中</p> <p>＜将来構想＞ 「MY SATのまち日立」の実現 ・日立が人々であふれ活気ある街並へ(地元再生) ・機械加工が子供のなりたい職業へ(機械加工業の地位向上)</p> | <p>○2022年に「石蔵のサウナがある一棟貸し古民家宿」の事業化を検討 ○2022年より東京と大子町の二地域居住開始 ○古民家と大谷石の蔵をリノベーションし、「DAIGO SAUNA」を2023年9月にグランドオープン</p>  <p>＜アイデアソンでの取組＞ ○大子町の体験のハブとなる魅力が詰まったキュレーション宿の検討 ⇒ワーケーション施設、合宿などコミュニティ向けのパッケージツアー、インバウンド向けサービスの提供に向け準備</p> <p>＜将来構想＞ ・大子町の資源を活かしたまちづくり(観光・農業・林業・教育など) ・二地域居住による関係人口創出 ・次世代に大子町の明るい未来を継承</p> | <p>○自社の射出成型技術と茨城県内企業の技術を活かしたエラストマー素材のゴルフグリップを開発 ⇒2024年春販売開始</p>  <p>＜アイデアソンでの取組＞ ○販路拡大に向けた取組を検討 ・商標登録 国内：済、海外12か国：申請中 ・専門商社や工房等への働きかけ ・プロゴルファー等の利用の働きかけ プロ・トップアマ含め23人が採用決定 ・各種プロモーションの実施 ⇒販売計画 2024年 6万本 2029年 31万本 ※2026年より海外展開</p> <p>＜将来構想＞ ・社員の年収アップ ・雇用創出により地元へ貢献</p> |

(参考) 県北振興チャレンジプランの主な実績：仕事づくり（有機農業の推進）

- 常陸大宮市において、三美地区を中心に有機農業の大規模モデル団地が約30ヘクタールに拡大（2024年3月現在）。
- 2023年には、地域外の農業法人による新規有機農業モデル団地（常陸太田市内）の創出など、付加価値の高い有機農産物の更なる生産拡大が図られた。
- 2023年11月5日には、常陸大宮市が主催する「有機農業シンポジウム」の中で、同市が県内初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行い、有機農産物のレストランや旅館での提供、加工品開発等の一連の取組を加速する方針を自治体として打ち出すなど、県北地域における有機農業の一層の推進が図られた。

オーガニックビレッジ宣言について

- 1 **「オーガニックビレッジ」とは、**
「有機農業実施計画」を策定し、農業者や事業者、地域内外の住民を巻き込んだ**地域ぐるみで生産から消費まで一貫した取組を進める市町村のこと。**
- 2 **国は「みどりの食料システム戦略推進交付金」で、**
市町村のの策定に必要な取組や、**有機農業拡大のための栽培技術の実証、販路開拓等を支援。**
※ 初年度最大1,000万円、2・3年目最大800万円を補助
- 3 **市町村はオーガニックビレッジ宣言を行い、**
自治体として有機農業推進の方針を明確に打ち出すことで、**地域の有機農業への転換促進や、販売店からの引き合いが高まる**ことが想定。

これまでの県による支援等

- 常陸大宮市内において、三美地区を中心に30ha規模の**大規模有機モデル団地**を育成（**現在も拡大中**）
・畑地帯総合整備事業による基盤整備（2020年度完了）
- **栽培技術指導**（ソフト面）及び**生産施設・機械整備等**（ハード面）による生産性向上等を推進
・パイプハウス資材や農業機械等の導入支援（2019年度～）
・栽培技術指導、堆肥のマッチング及び実証研究 等
- 農業者、消費者、流通・販売事業者、その他関係機関による「**常陸大宮市有機農業推進連絡協議会**」を構成し、**生産・販売のネットワークを創出**



大規模有機モデル団地
(三美地区)



技術検討会の様子
(2022年12月6日)

(参考) 県北振興チャレンジプランの主な実績：人づくり（茨城県北地域おこし協力隊の活動支援）

○首都圏等を中心とした地域外からの新しい視点で、県北地域の地域資源の活用や地域課題の解決につながるビジネス等を起こし、その成果を地域に広く波及させることができる人材を茨城県北地域おこし協力隊【起業・複業型】として委嘱

○これまでに30名の隊員を委嘱し、現在25名が活動中。その内21名が起業を実現

隊員の状況

R6.3.1現在

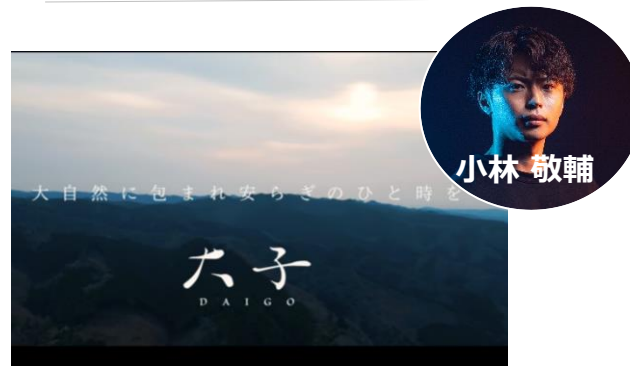
平均年齢 34歳

| 拠点市町 | 隊員数 |
|-------|-----------|
| 日立市 | 12 |
| 常陸太田市 | 7 (1) |
| 高萩市 | 1 |
| 北茨城市 | — |
| 常陸大宮市 | 3 |
| 大子町 | 7 (4) |
| 合計 | 30 (5) |

隊員の主な活動内容



- 企業・地域ブランディング
- コンテンツプロデュース



- プロモーションビデオ制作



- テントサウナ体験の提供
- サウナイベントのプロデュース



- 企業等の「課題」と解決スキルを持つ「支援者」を結ぶマッチングサービス



※ () 内は退任者で内数